

メンタルヘルス科に科名変更 幅広い精神科医療ニーズに対応

厚生労働省が3年ごとに全国の医療施設に対して行っている「患者調査」によると、平成8年には43・3万人だったうつ病総患者は、その後増加を続け、平成20年には104・1万人と2・4倍に増加しています。十和田市中央病院では、幅広く「心」の病いに対応するため、従来からの固定した「精神神経科」のイメージを払拭し、清新なイメージで、より広い医療ニーズに応えるため、11月15日から診療科名を「メンタルヘルス科」に変更して治療を行っています。

■上十三地域の精神科医療の中心的担い手

中央病院のメンタルヘルス科は、三八上北地域の精神科治療体制の中心としての役割を果たしています。

メンタルヘルス科は、地域から求められる精神科医療（急性期医療、救急医療、合併症、児童思春期）を中心に、患者の早期治療、早期退院、社会復帰に努めることを基本方針としています。

入院加療においては、手厚い看護師配置基準や早期の自宅への退院が定められている「精神科急性期治療病棟」として運営しており、メンタルヘルス科病棟は、上十三圏域住民の精神科急性期治療として、うつ病のために自殺の危険性が高まっているかた、幻覚や妄想で興奮状態に



清新なイメージでスタートしたメンタルヘルス科

なっているかた、認知症で徘徊し、家族では対応できなくなっているかたなど、今すぐに治療が必要なかたに対して入院治療を行っています。特に、地域の社会資源（デイケア、

ヘルパー、社会適応訓練事業、就労支援事業）の利用と連携を通じた早期退院（平均在院日数約50〜60日）、社会復帰を特徴としています。

また、メンタルヘルス科は、従来の収容型の精神科入院医療から転換し、患者の地域での生活を支える医療を行っているため、訪問看護、訪問診療（病院を受診できない患者に対し、医師と精神保健福祉士の訪問）も行っています。

■訪問診療で

患者の地域生活に安心感が

メンタルヘルス科の治療が必要な患者の中には、体の具合が悪くて病院に向くことができなかつたかたがいます。また、人混みが怖いといった症状があるため、外出できず病院に来ることができないかたもいます。そのうち、治療が途絶えてしまい、せっかく落ち着いていた精神状態が悪くなってしまうことがあります。

当院の訪問診療は、このようなかたがたが住み慣れた場所で生活と治療を続けていけるように、メンタル



ヘルス科の医師、精神保健福祉士が自宅を訪問して、診察したり薬を出したりします。また、どうしても生活の幅が狭くなってしまう日常生活の幅を広げるような援助もします。

■幅広い「心」の病は早期治療を

全国でも自殺率が高い本県においては、症状により自殺の危険性が高くなるうつ病、アルコール依存症、総合失調症などの精神疾患の早期治療が非常に重要です。

「心」の問題を抱えている人は、問題を抱え込まず、できるだけ早くメンタルヘルス科を受診してください。

問中央病院メンタルヘルス科

☎ 5121